

(トップページ:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(石油:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/oil.html>)

(天然ガス:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/Gas.html>)

(MENA・イスラム諸国:<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MenaOicCountries.html>)

マイライブラリー:0304

(注)本稿は 2014 年 3 月 10 日にブログ「石油の内外情報を読み解く」に掲載したものです。

2014.3.10

前田 高行

イランの石油・ガス開発に一番乗りするのはどこの国？

イランはロハニ政権発足後、核査察受け入れに前向きとなり米欧の経済制裁が一部緩和された。これにより現在凍結されている外国企業によるイラン国内の石油・天然ガス開発への再参入が脚光を浴びている。果たして参入一番乗りを果たすのはいずれの国(企業)であろうか？

イランには未開発の油田が多数残されており、かつて日本の国際石油開発帝石が開発利権を得ながら撤退したアザデガン油田などはその一例である。また天然ガスについてはカタールの North Field と一体を成すペルシャ湾沖合の南パルス・ガス田は世界最大の構造的ガス田である。既にカタールは世界最大の LNG 輸出国となり経済的繁栄を謳歌しているが、一方のイラン側は LNG 液化技術を外国企業から導入できず、またパイプラインによるインド・パキスタンへの輸出も政治外交問題がからみ実現していない。

経済制裁の結果、石油の輸出は以前の200万 B/D から100万 B/D を割り込んで見られ、同国の外貨事情は急激に悪化している。経済の立て直しが新政権の最大の課題であり、石油輸出量の回復及び LNG 或いはパイプラインによる天然ガスの輸出である。イランは外資を導入し石油・天然ガスの開発を加速しようとしている。

同国のザンガネ石油大臣は欧米の国際石油企業(IOC)と接触を深めている。ザンガネはハタミ政権時代の1997年から2005年まで石油相をつとめたベテランであり、IOC と太いパイプを持っている。さらに大統領と石油大臣は1月スイス・ダボスで開催された「世界経済フォーラム」に揃って出席、大統領が自国の経済開放政策を語り、石油相は会議に出席した伊 ENI 社 CEO などと意見交換を行っている¹。

もちろん各国政府要人のイラン詣でも盛んである。最も熱心なのがイタリアであり、昨年12月には外相が10年ぶりにテヘランを訪問しロハニ大統領と会談、さらに今年に入り国会議員代表团、文化財相等が続々訪れている。仏経済界も2月初め石油大手 Total、自動車ルノーなど107人の大型使節団を送り込んだ²。日本も遅れを取っているわけではない。昨年11月には岸田外相がテヘ

ランを訪問、また3月には安倍首相が来日したザリフ外相と会談して凍結されている原油輸入代金の送金を再開、両国の経済関係正常化に道をつけた。

経済制裁前のイランの石油・天然ガス分野における外国企業の進出状況について調べると、石油については2010年の段階で欧米の国際石油企業はイランとのビジネスを停止³、同年10月には既に述べたように日本の国際石油開発帝石もアザデガン油田開発プロジェクトから撤退を表明している⁴。このプロジェクトは翌年中国の CNPC が奪い取った。但しその後プロジェクトは進展していない。

イランへの進出に強い意欲を持っているのはフランス、イタリア、中国あたりであり、ダークホースとしてはインド、マレーシアなどのアジア勢とホルムズ海峡を挟んだオマーンであろう⁵。南パルス・ガス田開発にはこれまで仏 Total、伊 Eni、中国 CNPC、CNOOC、マレーシア Petronas などが参画している(末尾表 1-D-3-51 参照)。現在プロジェクトの多くは塩漬け状態であるが、解禁されればそれらが復活するであろう。但しフランス、イタリアは Total、Eni の個別企業の問題であり、政府としてはスエズ運河以東にあるイランに深入りする理由は乏しい。

問題は米国である。今のところ ExxonMobil、Chevron など米系企業の名前は一切出てこない。米国世論には強いイラン・アレルギーがあり、企業としてはリスクを冒してまでイランに進出するつもりはないであろう。ましてシェール革命のおかげで石油・天然ガスの100%自給がささやかれる現状ではなおさらである。世界的な供給過剰を恐れる米国政府或いは米国系石油企業はむしろ他国のイラン進出を牽制することに精力を注ぐ可能性すらある。

日本はどうだろうか。再三触れたアザデガン油田の復活が考えられるが国際石油開発帝石(INPEX)は消極的と思われる。無理もない。同プロジェクトは日の丸原油の夢を抱いてイラン政府から獲得したもので当時は経産省が大々的に戦果を誇ったのであるが、プロジェクトには当初から暗雲がさしていた。案の定米国の横槍で日本政府は及び腰となり INPEX は撤退を表明させられたのである。INPEXとしては多分二度とイランの石油開発案件は手掛けたくないであろう。巨額の投資リスクがある天然ガス・LNG の開発も微妙である。参画の可能性のある日本企業として大手商社、石油精製企業或いは日揮のようなエンジニアリング企業が考えられる。但しここにも米国の影がちらつく。対イランビジネスに対して米国は対米輸入ボイコットと言う切り札を持っている。日本の商社はそれには抵抗できない。つまり日本企業としてはイランの石油・ガス開発プロジェクトは米国企業とコンソーシアムを組まない限り成り立たないであろう。

結局イランのエネルギー開発を担う最有力候補は中国、インドなどのアジア諸国ではないかと思われる。今後アジアのエネルギー消費が世界で最も伸びることは間違いなく、イランとアジア諸国はウィン・ウインの関係だからである。但し天然ガスの LNG プロジェクトについては技術及び資金の両面で日米欧の関与が不可欠であり、アジア勢と先進諸国のコンソーシアムと言う形になるであろう。

以上

イランのガス開発及び LNG 計画

計画名	対象	開発企業(*)オペレーター	事業概要(2010.1月現在)
サウスパルス フェーズ1	国内向けガス開発・生産	*Petropars(イラン)	2004年4月生産開始
サウスパルス フェーズ2、3	国内向けガス開発・生産	*Total 40%, Petronas(マレーシア)30%, Gazprom(露)30%	2002年3月生産開始。2003年、操業権 NIOC 移管
サウスパルス フェーズ4、5	国内向けガス開発・生産	*Eni 60%, Petropars 20%, NICO(イラン)20%	2004年10月生産開始。陸上施設、現代重工(韓)施工。
サウスパルス フェーズ6、7、8	EOR ガス圧入用	Petropars 60%, StatoilHydro(ノルウェー)40%	2009年生産開始見込むも延期。
サウスパルス フェーズ9、10	国内向けガス開発・生産	*LG E&C(韓国)、IOEC(イラン)、OIEC(イラン)	2007年生産見込むも未完。
サウスパルス フェーズ11	LNG(年産:500万トン x 2トレイン)	Total 40%, Petronas 10%, NIOC 50%	生産開始予定 2014年なるも Total 投資未定。
サウスパルス フェーズ12	LNG(年産:500万トン x 2トレイン)	Petronas 90%, OMV(オーストリア)10%	2012年生産開始見込み
サウスパルス フェーズ13、14	LNG(年産:800万トン x 2トレイン)	Shell, Repsol YPF(スペイン)、NIOC	2014年生産開始見込み。Shell, Repsol はフェーズ 13 撤退を決定。
サウスパルス フェーズ15、16	国内向けガス開発・生産	ハタモル・アンビア建設本部	
サウスパルス フェーズ17、18	国内向けガス開発・生産	IDRO(イラン), OIEC, IOEC	2007年7月開発作業開始。投資額 20億ドル。
サウスパルス フェーズ19、20、21	国内向けガス開発・生産	未定	2006年2月入札公告。Shell, Total, Eni, StatoilHydro, Sinopec, Lukoil, BHP, Petrobras 資格審査通過なるも契約未了
サウスパルス フェーズ22、23、24	国内向けガス開発・生産	TPAO(トルコ)	
South Pars LNG	LNG(年産450万トン)	NIOC, CNPC(中)	プラント建設予定地:アッサルヤ
North Pars ガス田	LNG(年産2,000万トン)	NIOC, CNOOC(中)	2006年12月 MoU 締結。投資総額 160億ドル以上。
Qeshm LNG	LNG(年産:115万トン x 3トレイン)	NIOC, LNG Ltd(豪)	2010年第一トレイン完成を予定
Golshan/Ferdowsi ガス田	N.A.	NIOC, SKS Ventures(マレーシア)	2007年1月 MoU 締結。投資総額約 160億ドル。

出典:「石油・天然ガスレビュー」2010.1 Vol.44 No.1 P.9-10 by JOGMEC

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行

〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601

Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642

E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

¹ Arab News on 2014/1/24m 'Iran lures oil majors with new contracts pledge'

² 2月5日付け朝日新聞「欧州各国、イランへ続々

³ Arab News on 2010.6.29, 'Western oil firms stop business with Iran'

⁴ 平成22年10月15日付プレスリリース参照。

⁵ 拙稿「イランとの独自外交に賭ける日本とオマーン」(2013年11月)

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0288JapanOmanIranDiplomacy.pdf>